

製 鉄 部 会 委 員

(昭和37年12月現在)

部会長	日本鋼管株式会社(川崎)	林 敏
委員	八幡製鉄株式会社(本社)	小菅 高
	" (八幡)	辻畑 敬治
	" (戸畑)	福田 宣雄
	" (技研)	児玉 惟考
富士製鉄株式会社(本社)	米沢 泰三	
" (室蘭)	横山 俊造	
" (釜石)	青木猪三雄	
" (広畑)	芹田 勇	
日本鋼管株式会社(本社)	萩原 興吉	
" (川崎)	稲原 敏雄	
" (鶴見)	池上 平治	
" (水江)	藤井 行雄	
川崎製鉄株式会社(本社)	矢野 武夫	
" (千葉)	原田 静夫	
住友金属工業株式会社(本社)	山本 信公	
" (支社)	俵 隆治	
" (小倉)	永見 勝茂	
住友金属工業株式会社(和歌山)	河西 健一	
株式会社中山製鋼所	菊池 正	
尼崎製鉄株式会社	藤井 成美	
株式会社神戸製鋼所	松尾 英一	
大阪製鋼株式会社	堺 千代次	
東海製鉄株式会社	高木 直	
日新製鋼株式会社	佐々木 進	
"	渡辺 五郎	
矢作製鉄株式会社	多田嘉之助	
日本學術振興会	三本木貢治	
幹事	日本鋼管株式会社(本社)(兼)	萩原 興吉
	通商産業省 重工業局	中島 淳夫
	日本鉄鋼連盟	飯島 健一
	日本鉄鋼協会	田鍋 力

製 鉄 部 会 報 告 書 編 集 委 員

昭和37年10月30日 報告書「製鉄技術の進歩」の編集のために部会委員全員(前掲)に編集委員を委嘱し、次の諸氏に編集幹事を委嘱した。なお本文の執筆分担は目次に示した。

製 鉄 部 会 編 集 委 員

部会長 日本鋼管株式会社(川崎) 林 敏
委員 前掲委員参照

製 鉄 部 会 報 告 書 編 集 幹 事

部会長 日本鋼管株式会社(川崎) 林 敏
幹事 八幡製鉄株式会社(本社) 坪井 登
富士製鉄株式会社(本社) 米沢 泰三
日本鋼管株式会社(本社) 萩原 興吉
川崎製鉄株式会社(本社) 矢野 武夫
住友金属工業株式会社(支社) 池田 義孝
通商産業省 重工業局 中島 淳夫
日本鉄鋼連盟 飯島 健一
日本鉄鋼協会 田鍋 力

製 鉄 部 会 開 催 記 録

第7回~第18回にわたる製鉄部会の開催経過は次のとおりである。

部会回数	開催年月日	場 所
第7回	S. 32. 7. 23~24	日本鋼管(東京本社)
第8回	S. 32. 22. 19~21	八幡製鉄所(八幡)
第9回	S. 33. 3. 28~29	日本鉱業会講堂(東京)
第10回	S. 33. 8. 20~22	富士製鉄(室蘭)
第11回	S. 33. 12. 4~5	学士会館(東京)
第12回	S. 34. 3. 25~27	神戸製鋼(灘浜)
第13回	S. 34. 10. 13~14	鉄鋼連盟(東京)
第14回	S. 35. 4. 20~22	富士製鉄(釜石)
第15回	S. 35. 10. 26~27	鉄鋼連盟(東京)鋼管(川崎)
第16回	S. 36. 7. 4~6	住友金属工業(和歌山)
第17回	S. 36. 11. 13~14	鉄鋼連盟(東京)
第18回	S. 37. 6. 12~14	八幡製鉄所(八幡)

部会の議事は原則として講演、共通議題、および自由議題にわかれ、講演においては、開催地事業所の紹介、あるいは比較的大きな問題の、技術検討の結果が報告された。共通議題には、その時期に応じて共同研究のテーマが選定され、始め高炉作業月報諸資料の計算基準および定義、焼結試験方法、高炉の標準能力と炉内容積等が引きつづいて討議され、結論を得た。さらに第8回では熱勘定方式の統一、第13回には高炉原料の分析試料採取方法が検討され、さらにその後、複合送風、高炉大型化にともなう問題点、鉱石の破碎篩分、焼結機の新設改修の状況などが共通の問題点として各事業所の検討資料が

提出され熱心な討論が行なわれた。自由議題としては、部会ごとに高炉、焼結の作業成績が発表され、その他、新設改修設備の紹介がその都度行なわれ、また、作業解析、研究の結果が詳細に発表討論された。テーマを通観すると、高炉操業理論の解析、焼結作業解析、調湿操業などからはじまり、逐次自溶性焼結の大量使用、鉍石整粒等が検討され、最近では、重油吹込を主とする複合送風に焦点が移行して、製鉄技術の推移を浮き彫りにするとともに、その進歩に大きく貢献した。

これらの提出資料を一括して表示する。

製鉄部会議題および提出資料目録

(第7回～第18回)

〔共通議題〕

部会回数

- 第8回 ○焼結鉍の品質の試験方法の統一
8 ○熱風炉の熱効率算定方法の統一
8～10 ○高炉作業月報用資料の計算基準および定義の統一
8 ○最近の代表高炉の熱精算
11 ○自溶性焼結鉍製造上の問題点(使用上を含む)
12～14 ○高炉の標準能力と内容積について
12～14 ○焼結試験方法について
13 ○高炉用原料の分析試料採取について
15 ○大型化に伴う問題点
15, 17 ○公称能力について
15 ○作業月報様式改正
16～18 ○燃料吹込について
16 ○その後の新技術、新設備について
17～18 ○改修、新設高炉の建設、火入および操業状況
17 ○吹止時の異常現象

〔自由討議〕

- 第14回 ○ペレットと焼結鉍とについて (八幡)
○高圧操業について (川鉄)
○燃料吹込について (尼鉄)

〔講演〕

- 第8回 ○減湿装置使用による調湿操業試験について (八幡)
○焼結諸条件特に焼結層を通る風量に関する調査 (住金小倉)
○小粒生ペレット(セミペレット)配合による焼結について (富士広畑)

- 高炉操業の解析 (鋼管川崎)
○模型実験による高炉々頂装入分布試験 (川鉄千葉)
第9回 ○炉頂装入装置内および装入面における装入物分布について (八幡)
○ストックライン上CO₂分布と羽口水準炉芯形状測定結果について (中山)
○水蒸気吹込操業について (鋼管鶴見)
第10回 ○新設鉍処理設備の効率調査について(八幡)
○自溶性焼結鉍の製造ならびに100%装入による高炉操業 (住金小倉)
○大島焼結工場10年の進歩 (鋼管川崎)
第11回 ○各種焼結原料の焼結特性について (八幡)
○実物大装置による炉頂分布試験について (尼鉄)
○炉芯の大きさとお操業について (中山)
第12回 ○自溶性焼結鉍の高炉における操業実績について (八幡)
○簡易ガスサンプラーによる高炉々内ガス分布の調査 (住金小倉)
○第1高炉附属熱風炉第2次改修のためのギッター煉瓦設計 (富士室蘭)
第13回 ○石灰焼結鉍の工場実験について(特別講演) (富士釜石)
○赤鉄鉍の焼結特性について (中山)
第15回 ○最近における当所の高炉操業について (鋼管川崎)
○広畑における酸素富化操業に対する2,3の考察 (富士広畑)
○灘浜焼結工場の操業推移他 (神鋼)
第16回 ○和歌山製鉄所の焼結、製鉄設備の概要 (住金和歌山)
○室蘭第4高炉設備概要と吹込操業について (富士室蘭)
○第1高炉の操業実績について (大阪)
○欧米出張報告(特別講演) (八幡)
○燃料吹込について(特別講演) (東大生研)
第17回 ○重油吹込について (鋼管川崎)
○加圧焼結試験および本鍋試験について(中山)
○第2高炉(第7次)改修工事概要と操業状況について (富士釜石)
第18回 ○戸畑第3高炉の火入と操業および設備について (八幡)
○千葉第1高炉吹止め時の炉内附着物について